

# CURES

## NEWSLETTER

# 地域経済 ニュースレター

1999.10.30 No.50

### 巻頭言

## 恐慌の新しい現象形態

宮田 美智也

昨年10月の金融再生法施行以来に限っても、破綻した金融機関は大小合わせて20を越える。その後始末に巨額の公的資金が使われていることは、周知のところである。そのほか、後述するように、中小企業金融のためにも同じく国民的負担が強いられている。これらの事実はどうに理解すればよいのか。それここでは、恐慌論の視点からその現象の形態変化として明らかにする。

世界史上最初の(周期的)恐慌はイギリスにおける1825年恐慌である(この恐慌を指標としてイギリスには資本主義が成立したとされる)。それ以後イギリスは36年、47年、57

年、66年と、ほぼ10年ごとに恐慌に見舞われる。恐慌現象に対するイメージはそれらの恐慌をもって形作られ、それが通俗化する。すなわち、好況期に「先行きの需要の拡大が見込めなくなると」、「需給の大幅な不均衡が突如として現れ」、それは「商品の投売り(急速な在庫調整)をともなって、急速な生産の減少、物価の下落が生じることになる」。そして「金融面では、急速な需要減退は、……信用不安を発生させ」、ひいては「銀行への取付騒動に発展することもあり、そのような場合には金融機能が麻痺状態に陥る(金融恐慌)」。しかし、「第2次世界大戦後の資本主

#### ■ 巻頭言

恐慌の新しい現象形態 ..... 宮田 美智也

#### ■ CURES Report

ポーニャ通信 ..... 佐々木 雅 幸

#### ■ CURES Topic

進化経済学とは何か ..... 鄭 承 衍

“粹な町工場” ..... 田 口 直 樹

金沢大学経済学部

義経済をみると、……大規模な恐慌が繰り返し発生するような状況は回避されている」と、井野靖久が書いているようにである(『金融辞典』東洋経済新報社、1994年、190-191ページ)。

そこから窺える恐慌現象とは、企業の連鎖倒産が生じ、そのあおりを食らって銀行も倒産するというようなものである。「取付騒動」は銀行の連鎖的な倒産を引き起こしかねないであろう。たしかに、この90年代の日本ではそこまでの現象は見られない。しかし、本質的には同じことが起こっている。恐慌は資本主義がその構造を変えるのに伴い、形を変えて現れる。つぎのとおりである。

90年代に入っても失業率は緩慢にしか上昇していない(金融機関の破綻もそれが目立ってくるのは、その後半のことである)。それはとくにその前半期に発動された総額59兆5200億円にのぼる経済対策(や低金利政策)が奏功した結果であろう。しかし、失業率はこの4月には男性のみではついに5.0%に達した。しかし、その数字は実際にはもっと高くなるはずである。と言うのは、とくに中小企業の倒産を減少させる働きをする(競争力のない企業の延命に手を貸す)政策金融が施されていることに注目するからである。

昨年10月、政府は中小企業向け貸倒り対策と銘打って、信用保証協会に20兆円の保証枠を設け、保証要件を大幅に緩和したが、この3月にはその枠をさらに10兆円追加した(いずれも原資は国債)。2月末段階で13兆円強が利用され、9月ごろまでに20兆円が使い切られる見通しとなったための追加対策であった。要するに、政府債務形成(国民的負担)による失業発生先の送り策、これがその本質である。国債(国民全体の支払負担)の増加は以上のように信用保証協会ルートを通じて倒

産(失業)発生抑制作用をしている(これは間接的には、地方金融機関に対し債権の不良化の抑止機能も果たしている)。つぎに、預金保険機構(及び日銀)ルートによる倒産発生防止政策がある。この場合、対象は金融機関だが、それによって預金者は時限はあるものの、当面債権(預金)は全額保護される。金融機関が破綻しても預金は支払われるのであり、取付け(預金引出し)騒動は遠い過去の出来事ということになる。しかし、その代わり(昨年10月以降だけで6兆円超にのぼる)国民的な債務負担によって金融機関を支えることが必要なのであった。

国民的資金(債務)の投入によって破綻を免れた金融機関は次いで、その恩恵を他に及ぼす。(大手銀行17行で1兆6000億円にのぼる)債権の放棄を行う、つまり債務の踏倒しを認めるのである(99年3月期)。この場合の債務者は直接的には大企業(建設業、不動産業が中心)だが、それらはまた関連企業(中小企業)に対しては債権者であるわけで、第2次的に債権放棄をなすであろう。このような債権放棄の連鎖は当然リストラ・企業整理を伴うはずだが、とにかくそれは失業の発生を最小限に抑える働きをする。

企業の倒産は失業者を生む。それが銀行の場合には、債権者たる預金者の預金は紙くずと化す。しかし、政府債務の形成によって企業の倒産は先伸ばしされ、金融機関が破綻しても預金が反古になることはなくなる。通俗的な意味での恐慌の発生は覆い隠される。そのような意味で、90年代の日本では恐慌は静かに進行しているのである。気がついてみたら国民的な債務の山が築かれているということになる。

(金沢大学経済学部教授)